

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	赤き羽根の矢 : 文苑
Author(s)	山川, 廉
Citation	龍南會雜誌, 148: 25-26
Issue date	1912-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6414
Right	

トン コロリン――

紅白の房の見臺、

蒔繪に見ゆる

夕波ちどり

もろ鳴きの

――ビ ビヨ ビヨく――

心すむ

小櫛のさばき。

あれほんに

しほらしいこと

リボンの蝶の

ひらひらとまる

小首かしげて

ひと聲高く

終りのひとふし

めもどもはしく

終りのひとふし。

――チリ ツン ツン――

チリ トチ シャン――

赤き羽根の矢

「逝きませり」この一言は我胸に赤き羽の矢の立ちしが如く

秋空のあかき夕焼照り延す水面を見つゝ欄干に寄る

眠れるがごとくに死せる里犬よ浮世の絆汝はとき得しか

砦なりかたくとどせる扉なりよわき腕になどやぶり得ん

豆菊の咲きみだれたる花園に帽子を振りて黄蝶を追ふ兒

さは云へど若き瞳のそのかげに憂の色をかすかにみとむ
西のかた川のゆくてを眺めつゝ紅きダリヤを流せし頃は
漂泊さまよひにつかれはてたるわが心たゞ神幸をたまへとねがふ
清らなる神垣もとの下に額ぬかづきてあはれ乙女よなにをか祈る
きよと泣くこほろぎが泣くきよとなくつめたき秋のかなしみをなく
しらしらと秋の涙ぞながれたる落葉のなかの夕暮の川

「松蔦」の「小春」へ

夢の花

「松蔦」の「小春」かはゆし縮緬の幕に書きたるかれの名もよし
歌麿の繪よりもさらに美しき君が舞臺の舞姿など
ことさらにそむきてなほも物思ふ汝が運命のいかに悲しき
かて足らず離れ小島に死するにも等しかるべき汝れのさだめか
落髪は琴緒をうちて未了縁ふりたる歌をかなでつるかな